

プロジェクトタイトル	小樽の長寿企業の経営理念、戦略に関する研究
プロジェクト代表者	戴秋娟

1. プロジェクトの目的・概要

令和6年度に採択されたプロジェクト研究で、学生と一緒に小樽市にある酒造会社、物流会社、ガソリン販売、伝統工芸といった4社でヒアリング調査を実施した。長い年月を経て、それぞれの企業は独特な経営理念が形成され、「温故知新」、「本業に集中する」、「地域との共生」などが長寿企業を支えてきた魂である。一方、人口減少する中で、人材の確保、承継の問題は課題として挙げられた。それぞれの企業が持つ特性は極めて個性的なものであり、軽々に「小樽の企業は…」などと一般化して論じられないが、ケースの集積が厚みを増やしてくるにつれて、その全体を覆うある種共通の論点が浮かび上がってきたことも考えられる。小樽の企業は100年の歴史を経て、さまざまな「層」layerをなしてきている。「小樽企業」というコンセプトでそのレイヤーの積み重なりの様子を描くことが地域の発展と再生につながる。令和7年度は引き続き、小樽商工会議所、関連企業から協力をいただき、19名のゼミ生とともに小樽市の長寿企業でヒアリング調査を実施する。今まで小樽の経済、産業を対象にした研究に加えて、個別企業のレベルで行った検討を加えることによって、小樽企業のコアコンピタンスや戦略を見出し吟味する。企業見学は学生諸君にとって実社会に触れる貴重な機会であり、小樽市の産業に対して理解を深め、キャリアディベロップメントを考える契機を与えられる。

2. 具体的な取組内容(～令和8年2月まで)

- ①令和7年4月-6月 ゼミでフィールドワークの方法、地場産業の歴史発展について学んでいた。
- ②令和7年6月 小樽倉庫株式会社代表取締役の山本みゆき氏をお招きして、「タルソーの経営理念」についてご講演をいただいたほか、産学連携の新たな可能性を模索していた。
- ③令和7年7月 小樽商工会議所の笹原馨氏をお招きして、「小樽商工会議所と小樽の企業」についてプロジェクト担当の担当している「経営史」の授業で講演をいただき、学生諸君が小樽の産業発展の歴史について理解を深めた。小樽倉庫白石物流センター、鯉御殿、小樽水族館でフィールドワークを行った。
- ④令和7年8月-12月 大川製鉄所、国賓館、旗イトウ、田中酒造、山本工業所でフィールドワークを行った。
- ⑤令和7年12月 星野リゾート北海道事業部人事担当部長の田村剛氏に「星野リゾートの経営発展と人材育成」についてご講演をいただき、人事担当者の視点から学生のキャリアディベロップメントをめぐって、助言をいただいた。
- ⑥令和8年1月-2月 光合金、株式会社鹿の湯でフィールドワークを行った。

3. プロジェクトの成果及び地域への還元

企業が様々な課題を克服して成長していく過程には、多くのドラマがある。プロジェクト研究を通して、小樽企業の創業期や企業が存続できるかどうかという瀬戸際の時期に、リーダーと数多くの名もなき社員が市場、製品開発に取り組み、困難にチャレンジして独創的な道を切り開く姿を明確にしてきている。自然環境をプラス要因にしている企業から、地域に根付く生活・文化を経営資源としている企業まで、いずれも「地域資源」を大切にしていることが小樽企業の重要な特徴の一つであることが検証できた。今年度は調査がメインであったが、今後、このような調査研究の成果発表(社会経済史学会)や小樽企業の関係者との情報共有などを通じて、小樽企業の発信を試み、多くの方の小樽に対する関心を引き出していきたい。更に、学生諸君がチームを組んでフィールドワークを企画することによって、現場経営に対する理解が深められ、実社会における問題解決能力、コミュニケーション能力が育成された。フィールドワークは学生にとっての自主学習のきっかけを作り、自ずから問題意識を発見し、今後繰り返して協力企業に入ることで問題解決するための関係構築が可能になると考えられる。